

地方が面白くなる大学ゼミツアー ～地方創生の取り組みの体験とレポート～

新しい地域創生の仕組みを体験することで、地域の魅力をビジネス化する取り組みです。



集落丸山にて、西岡ゼミ生（兵庫県篠山市）

活動の概要

目的	地域の魅力を引き出しビジネス化することで地域創生の仕組み作りを発見
連携メンバー および役割	神戸新聞社…本事業の主催 一般社団法人ノオト…篠山市での事業展開（NIPPONIAプロジェクト）、今回のゼミ受け入れ対応 兵庫県篠山市内の企業…ゼミの受け入れ 関西大学商学部 西岡健一ゼミ…訪問企業での体験とレポート作成
活動地域	兵庫県篠山市
活動期間	2015年8月

連携の経緯

西岡ゼミは神戸新聞社が主催する中小企業庁・全国中小企業団体中央会の補助事業である「Mラボ（※）」への参画などを通じて、同社と2013年から継続して連携し、企業の課題調査と解決策提案に取り組んできた。その後、連携先である神戸新聞社は、地域の特色ある取り組みを発信する取り組みとして「地方が面白くなる大学ゼミツアー」を2015年度に新設。そこに、これまでの連携実績が評価された西岡ゼミが参加することとなった。

※「Mラボ」…中小企業と大学生の就職マッチングを目的とした情報発信や交流機会の創出などを展開する事業。

解決すべき課題

- （1）地域の特色ある企業の認知度向上
- （2）地域の魅力を生かしたビジネスモデルの開発とそれによる地域創生の仕組み作り



源右衛門窯での体験



オリジナルジュエリー「應需(おうじゅ)細工所」



囲炉裏を囲んで懇談



たぶち農場にて、熱心に話を聞く参加学生

大学の役割

本事業は、2つの大学のゼミが一泊二日で兵庫県篠山市を訪問し、一般社団法人ノオトの案内で、地元企業の特徴ある取り組みを体験・レポートする合宿形式の事業である。

宿泊先は、2016年11月に菅官房長官も訪れた「集落丸山」。限界集落の古民家を、建物の特徴を生かした宿泊施設として再生し、集落の活性化に成功している。朝食は集落到に住む女性が手作りで提供するものが評判である。現地では「集落丸山」の他、篠山の城下町全体をホテルとする「NIPPONIA」、地元の特産である丹波黒を取り扱う小田垣商店、丹波焼の窯元である源右衛門窯、囲炉裏料理屋いわやなどを訪問した。

この事業を通して、学生は地域の魅力を感じるとともに、それらの情報を発信する手法、マーケティングコミュニケーションの課題、またそれをビジネスとして成立するためのシステムづくりについて、理解を深めることができた。篠山市でのこの一連の取り組みは、地域創生のモデル事業として国からも注目されている。

本事業における大学の大きな役割の一つは、次世代の人材を育成するプログラムの作成である。今後は地域創生も含めた新しいビジネスモデル開発研究へと繋げ、産学連携とイノベーション、そして教育プログラムを活用した新たなモデル開発が必要になると想定される。

成果

- （1）対外的な広報効果として参加学生の一連のレポートが神戸新聞に掲載
- （2）学生たちが様々な体験を通じて、新たなキャリアプランを考えることができた
- （3）大学内での研究成果として、地域創生も含めた社会との関係を通じた新たなビジネスモデルを開発中

今後の展望

- （1）教育プログラムとの連携強化
- （2）新たなビジネスモデルによる新事業開発の実践
- （3）それらを通して、関大発の教育・研究プログラムの開発

研究者の紹介



商学部 准教授
西岡 健一
(にしおか けんいち)

エジンバラ大学ビジネススクール博士課程修了、PhD（エジンバラ大学）。日本電信電話株式会社ネットワークサービスシステム研究所、西日本電信電話株式会社を経て、現職。専門はサービス・イノベーション論。ゼミではマルチプロジェクト体制と英語での発表機会を増やすことで、人材育成に取り組んでいる。